

「体験から広がること」

校長 泉谷 俊郎

卒業の日を迎えられた皆さん、ほんとうにおめでとうございます。皆さんに勧めるのは「とにかくやってみよう」今すぐ必要性を感じないことも含めて、様々な体験をしようということです。この「やってみよう」は、誰もが、ちよつとした時間でできる体験を増やそう。そしてその体験を自分の中にどう置いて将来的にどんな価値をもたせていくかというのを考えてみましょうということです。まずは気軽に体験。少し興味をもったことや何かのきっかけで出会ったことがあれば躊躇せず進んでやってみることで、とにかく真剣に、面白がりながら自ら行動してみることが大切で、最初からは、そのことの意義や価値などをあまり考えなくてもいいと思います。皆さんはお茶を作ったことがあるでしょうか。以前に私はその機会に恵まれました。とある話の流れで、ある方が収穫した「チャの葉」を「お茶」に手作業で加工していると聞いたので一緒に作らせていただきました。当然、私はチャを栽培しようとか茶のプロになろうとか思った訳ではなく、知識としては知っていたその過程を純粹に体験してみたいと考えただけです。

茶畑から二葉一芯の形で手摘みして採ってきた茶葉を蒸して熱いうちに台の上に広げ、冷めない間に手揉みする。温度が下がってくると鉄鍋で煎ってまた揉む、煎る揉むを繰り返すという行程。チャの木と葉を詳しく観察でき、撚りながら揉む技術を間近で見ることもできました。しかし、熱い、とにかく掌が熱すぎたのです。この時は、なぜ見るだけにしておかなかったのだろう、と思いました。チャの葉はこの作業をしている初めのころ、多くの植物の葉と似た、いわゆる青臭い香りが続いていましたが、ある瞬間に香ばしく馥郁とした入れたてのお茶のさわやかな香りに変わったのです。徐々にではなく、瞬間に、驚くくらいに短い時間で。この感覚は体験しないとはわかりません。かなり時を経ているにもかかわらず、あの時の熱さと香りの変化は感動とともに鮮烈に心に残っています。確かに体験をしたからといって、すぐに何か目に見える形で自分にとつての直接的なプラスがあるわけはありません。ただ、その体験を自分の中でどう捉え、どう位置付けるか、どんな価値を見い

だせるかが大切です。自分の将来に直接関係ないので意味が無いと思えば思える。しかし、とても貴重な体験だと思えば思える。自分次第です。どう思うべきかなどという画一的な正解があるわけはありませんし、こうしてくださいというものではありません。しかし、これがどう広がるのか、何かに繋がっていくのではありませんか、という考え方ができると良い連鎖を生むことが多い気がします。そうしているともた次の体験へのモチベーションが上がることになり、それを繰り返すうちに自然といろいろなことの繋がりを感ずるようになります。そうなると同じような考えの人の流れの中に入ることになり、次々と同様の機会が巡ってくるものです。ただ、なによりその体験を面白い、楽しいと感じられることが大切なことではありますが。例えば、お茶をいただくときにその背景が浮んできて、お茶そのものの味に加えてここに至るまでの物語も味わうことができ、ありがたみが増すとともに一つのことから広がる新たな世界観を実感できます。そして、その感覚は他のものにも同じようにスライドして考えて楽しむことができるようになっていきます。茶にこれだけのストーリーがあるということはおにぎりにも消しゴム一つにも物としての存在の奥にある物語を察することができ、楽しいものです。プロと一緒に何かをするような体験だけでなく、野菜の切れ端を植えてみるとか、何かを試食してみるとか、ほんの小さなことから皆さんもいろんな体験の機会を増やすこと。そして、その体験から何を感じてどう心の中に置くかを意識してみてください。小さなことからまず体験、意識や感覚の中に何らかの蓄積が起きます。そこから得たことは自分自身に何かの広がりをもたらしにくれることになりました。「とにかくやってみる」ことをもとに次第に大きなことに取り組むことを身につけ、そして将来自分が活躍できる場へと大きく拡張していつてほしいと願っています。以前、すそ野を広げていくことがより高さを得ることにつながる話をしました。「とにかくやってみよう」はその例の一つです。三高生は素晴らしいポテンシャルをもっていると思っています。体験は、自分が気付けていない力を引き出すきっかけにもなります。ぜひ、意識して体験の機会を増やしてみてください。皆さんが将来、元気で心豊かな日々を過ごせることを願ってメッセージとします。